

# 串間市教育研究所

I 研究主題	4— 1
II 主題設定の理由	4— 1
III 研究目標	4— 2
IV 研究仮説	4— 2
V 研究構想	4— 2
VI 研究内容	4— 3
1 研究の基本的な進め方	4— 3
2 リーフレットの作成	4— 3
(1) キャリア教育の必要性について	4— 3
(2) キャリア教育で育成すべき力について	4— 3
(3) キャリア教育の進め方	4— 4、 5
3 キャリア教育の視点を意図的に関連付けた授業実践	4— 6
(1) 小学校での実践～第2学年～	4— 6、 7
(2) 中学校での実践～第2学年～	4— 8、 9
VII 成果と課題	4— 10
1 成果	4— 10
2 課題	4— 10
○ 引用・参考文献	4— 10
○ 研究同人	4— 10

## I 研究主題

### 夢や希望をもち、目標に向かって生きようとする児童生徒の育成

～キャリア教育の視点を生かした授業改善の取組を通して～

## II 主題設定の理由

日本の様々な分野において構造的な変化が起こる「知識基盤社会」が到来し、情報化・グローバル化・少子高齢化などにより、子どもをとりまく環境もめまぐるしく変化している。この社会環境の変化は、子どもにとって将来を考える上で理想的なモデル（大人）が見つけづらい、自分の将来を描きにくいなどの問題をもたらしている。そのため、学生の立場から就業者の立場への移行がスムーズに行えない若者や、目的をもった進路選択や将来計画が希薄なままに進学したために、進路変更をしなければならない学生が増加し、社会問題にもなっている。こうしたことを見踏まえ、変化の激しい社会を生き抜く力をもち、様々な課題に柔軟に対応できる職業的・社会的に自立した子どもを育成するキャリア教育の推進が強く求められている。

串間市では、「学力向上」と「地域に貢献できる人材の育成」を目指して、平成20年度から小中高一貫教育をスタートさせ、くしま学や読書教育などの取組を通して、校種間の連携を深めてきた。キャリア教育に関しても、キャリア教育部会を設置し、キャリア教育に関する児童生徒アンケート調査や、手引書の作成などに取り組んできた。

小中高一貫教育の組織にも位置付けられている本研究所では、平成24年度よりキャリア教育の研究を行っている。そして、キャリア発達を促す学級活動の指導の在り方を中心に研究し、串間市におけるキャリア教育の全体構想、学級活動におけるキャリア発達の課題をもとにした指導内容や能力の系統表、発達段階を踏まえた学級活動の授業の在り方について市内の学校に提案することができた。しかし、学級活動の内容に焦点を当てて進めてきた研究を各教科へ広げていく必要があることや、これらの取組が児童生徒の学習意欲に結びつくまでにいたっていないことなどが課題としてあげられた。

そこで今年度は、キャリア教育の視点を生かした授業改善を通して、夢や希望をもち、目標に向かって生きようとする児童生徒の育成を図ることとした。そのために、昨年度の研究を発展させ、『つなぐ、つなげる教育』を目指し、次の2点を軸に研究を進めていく。

一つ目は、教職員がキャリア教育についての理解をより深めることができるためのリーフレットを作成することである。本市の教職員は、キャリア教育の重要性を理解しているものの、教育活動の中にキャリア教育が十分に取り入れられているとはいえない。このリーフレットの活用により、キャリア教育の指導の在り方等が明らかになり、教育活動がさらに充実するであろうと考えられる。

二つ目は、「キャリア教育の視点」をもとに、児童生徒の心を揺さぶる体験を中心に各教科等の学びを意図的に関連付けた全体構想を作成し、授業を実践することである。このことにより児童生徒の学びの質が高まり、児童生徒は学習の意義を見いだしたり、学習意欲が向上したりするであろうと考えられる。

これらの取組を継続することにより、児童生徒が、自己の将来や就きたい職業、生き方について深く考えるとともに、現在の各教科や特別活動における学習が、自分の将来に役立つと考え、主体的に学校生活を送るようになると考えられる。また、「学ぶこと」の意義を自覚した児童生徒は、生涯を通して、自分の将来につながる「今」を充実させるために、現在をどのように生活すればよいか常に考え、実行できるようになると考えられる。そのような社会的にも職業的にも自立し、自分らしい生き方ができる人格の形成を支援する教育を目指し、本主題を設定した。

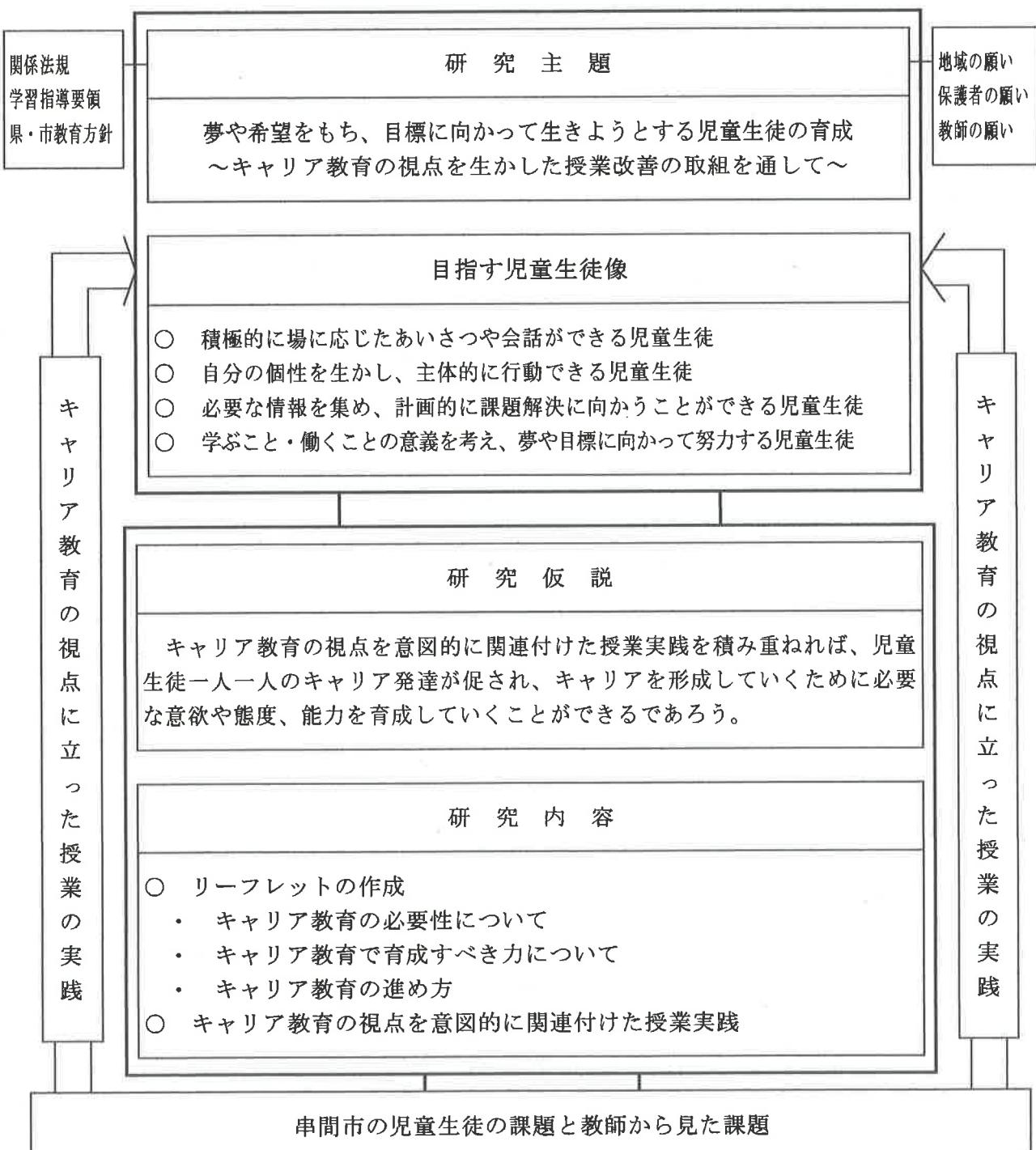
### III 研究目標

夢や希望をもち、目標に向かって生きようとする児童生徒の育成を図るために、キャリア教育の視点を生かした授業づくりの在り方について究明する。

### IV 研究仮説

キャリア教育の視点を意図的に関連付けた授業実践を積み重ねれば、児童生徒一人一人のキャリア発達が促され、キャリアを形成していくために必要な意欲や態度、能力を育成していくことができるであろう。

### V 研究構想



## VI 研究内容

### 1 研究の基本的な進め方

今年度、本研究を進めていくに当たって、教える側である教職員がキャリア教育について理解をより深める必要があると考え、キャリア教育の進め方等を整理した。そして、「キャリア教育の道しるべ」というリーフレットを作成することと、それをもとに授業を行い検証すること、という2つの研究の柱を立て、研究を進めていくことにした。

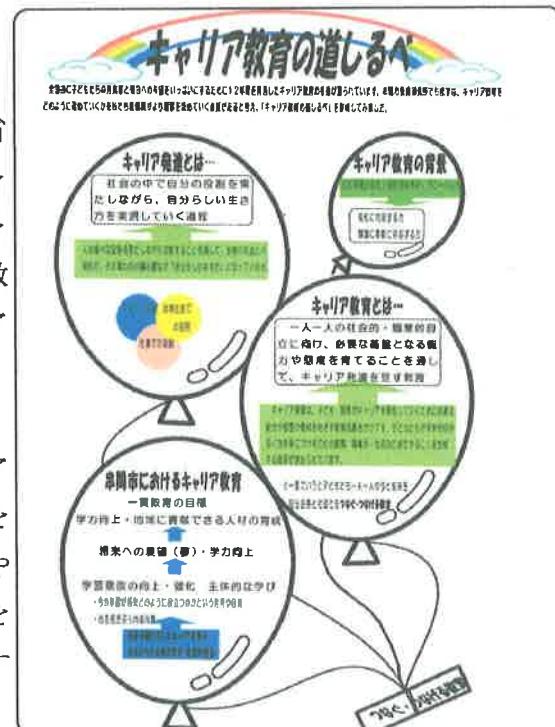
### 2 リーフレットの作成

#### (1) キャリア教育の必要性について

このリーフレットのはじめに、文部科学省の「キャリア教育の手引き」をもとに「キャリア教育の背景」「キャリア教育とは」「キャリア発達とは」「串間市におけるキャリア教育」について、右のように整理し、キャリア教育の必要性についてまとめた。

#### (2) キャリア教育で育成すべき力について

小・中学校の児童生徒一人一人のキャリア発達を促し、それぞれふさわしいキャリアを形成していくために必要な基盤となる能力や態度である4つの「基礎的・汎用的能力」を分かりやすい言葉にするために次の名称にすることにした。



【キャリア教育の道しるべ】

#### 分かりやすく置き換えたキャリア教育で育成すべき力 (☆目標とする性能の導例)

##### ○ 人や社会にかかわる力 ←人間関係形成・社会形成能力

多様な他者の考え方や立場を理解し、相手の意見を聽いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他人と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力。(☆自分の気持ちや意見を分かりやすく伝えることができる児童)

##### ○ 自分をみつめる力 ←自己理解・自己管理能力

自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、今後の成長のために進んで学ぼうとする力。(☆問題が解決できるまで粘り強く考えることができる児童)



##### ○ 課題を解決する力 ←課題対応能力

仕事をする上で様々な課題を発見、分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力。(☆見通しをもって課題を解決することができる児童)

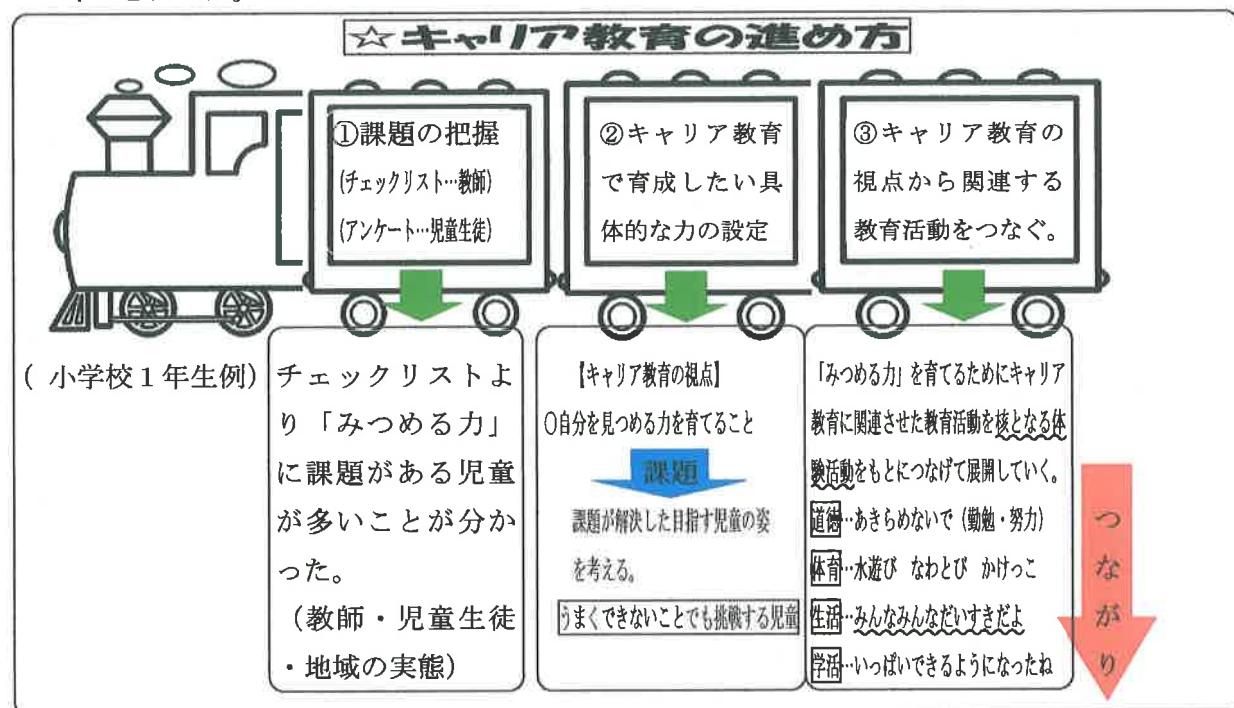
##### ○ 将来を考えぐる力 ←キャリアプランニング能力

「働くこと」の意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に収拾選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力。(☆将来の進路希望に向けて自ら主体的に判断し行動できる生徒)

【キャリア教育で育成すべき力】

### (3) キャリア教育の進め方

『本物に学ぶ』体験活動の意義は、本物に触ることで、子どもが他者の生き方や社会、歴史や自然などをより実感できることにある。体験活動を取り入れた学習は、社会の一員としての自分の価値への気付きや他者への共感的理解の深まりが期待できる。また、働くことや学ぶことへの意欲の向上、既習事項の活用や新たな知識の獲得への意欲を高めることにも効果的であると考えられる。そこで、本研究では、キャリア教育を進めるに当たって、核となる体験活動をもとに、関連する教育活動をつなげることが大切であると考えた。関連する教育活動をつなぐことによって、それぞれの教育活動の質を高めるとともに、キャリア教育で育成したい力も効果的に高めていくことができると考え、キャリア教育の進め方を以下のように展開していくことにした。



#### ア 児童生徒の実態把握について

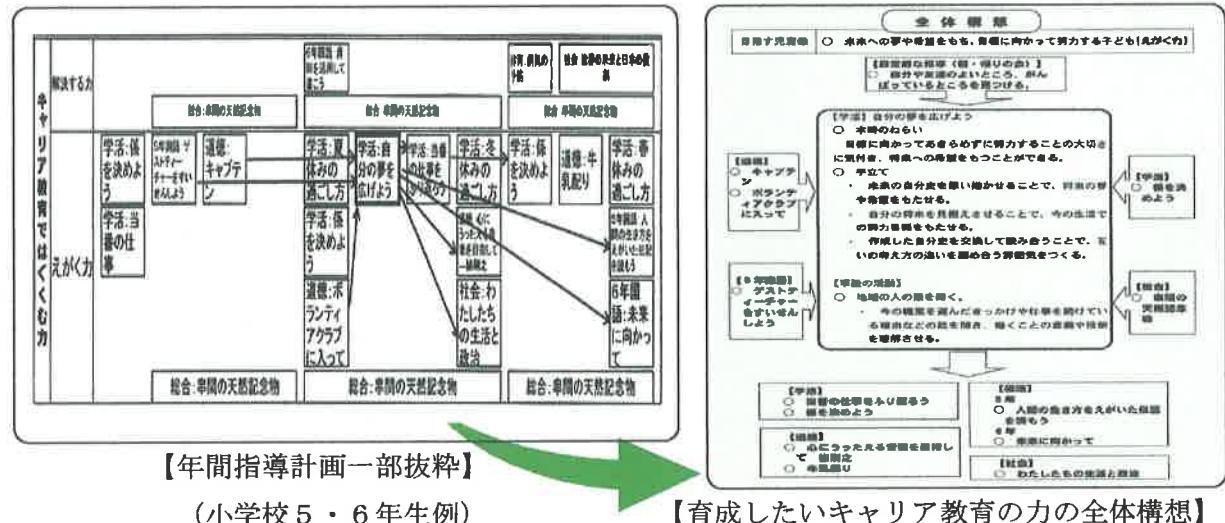
キャリア教育を進める最初の段階として、児童生徒のキャリア教育の視点から見た課題を把握する必要がある。そこで、文部科学省から出されている「キャリア教育の手引き」をもとに、日常生活を振り返るチェックリストやアンケートを作成した。このチェックリストは、キャリア教育ではぐくむ4つの力(かかわる力・みつめる力・解決する力・えがく力)のどれに課題が見られるかを把握する手がかりになるように、小学校1～3学年用、小学校4～6学年用、中学校用、保護者用、教師用を作成した。

日常生活アンケート（4～6学年用）		
これはテストではありません。あなたの日常生活（授業中や放課後、家庭での生活など全てを含みます）の様子を振り返って、当てはまる番号に○をつけましょう。		
4…いつもしている 3…ときどきしている 2…あまりしていない 1…ほとんどしていない		
①	友達や家族の話を聞くとき、その人の良いことや気持ちを書きながら聞こうとしていますか。	
②	相手にわかりやすいように、工夫しながら自分の書きや気持ちを伝えようとしていますか。	
③	自分から役割や仕事を見つけたり、分担したりしながら、反対と協力して行動しようとしていますか。	
④	自分の興味や興味、場所や短所などについて書きようとしていますか。	
⑤	自分がしづらんでいるときや、あまりいる気がないことでも、自分がしなければいけないことに取り組もうとしていますか。	
⑥	不得意なことや苦手なことでも、自分から進んで取り組もうとしていますか。	
⑦	わからないことやもっと知りたいことがあるとき、自分から進んで資料や情報を集めたりだれかに質問したりしていますか。	
⑧	何か問題が起きたとき、次に何しようか問題が起らないようするために、何をするかよくかえっていますか。	
⑨	何かをするとき、見直しをもって計画的に進めたり、よりよい方法を考えたりしていますか。	
⑩	学ぶことや働くことの大切さを学んだり、学校で学んでいることが自分の将来に役立つことを書きたりしていますか。	
⑪	自分の将来について具体的な目標を立て、その実現のための方法について書きていますか。	
⑫	自分の将来の目標に向かって努力したり、生活や勉強の仕方を工夫したりしていますか。	

【小学校4～6学年用アンケート】

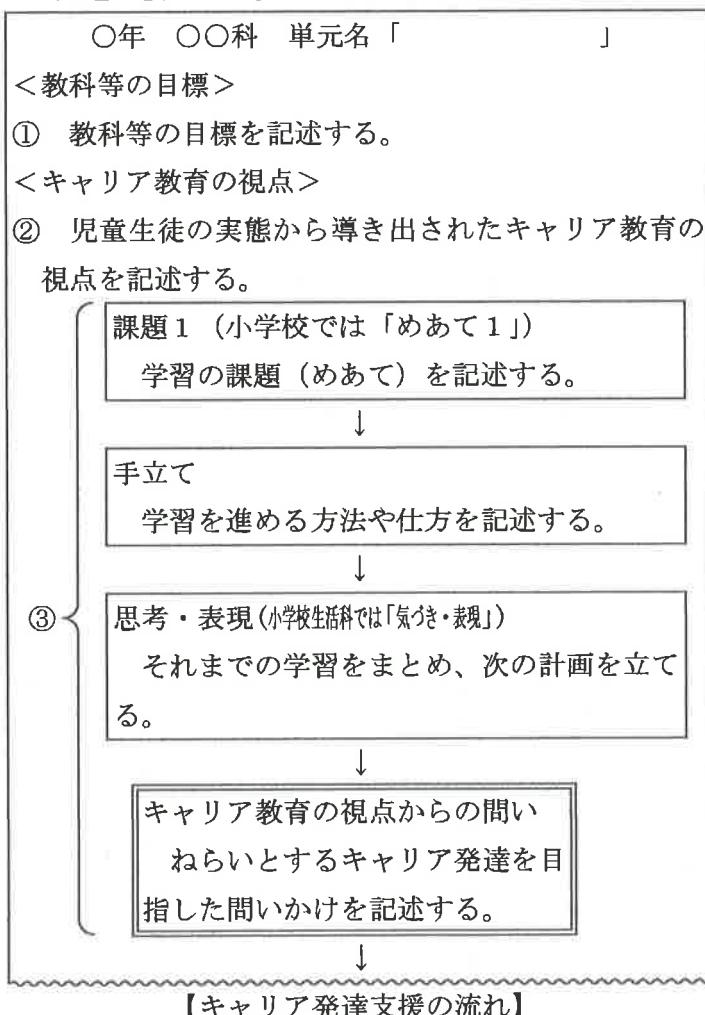
## イ 重点を置いたキャリア教育の力をはぐくむ全体構想について

以下のような年間を見通せる指導計画をもとに発達段階を考慮して重点を置いた能力の育成が期待できる単元等を選択し、実践化を図るようにした。その際、他教科等とのつながりも考え、核となる体験活動を決定し、具体的な手立ての工夫や改善を行っていくようにした。



## ウ 「キャリア発達支援の流れ」について

キャリア教育の視点から見た学習を進めるに当たって、教師が単元や題材などの学習でキャリア教育を意識して授業を行っていくことが大切であると考えた。そこで、本研究では、「キャリア発達支援の流れ」という作業シートを作成して授業を行うことにした。



- 教科等の目標を記述する。
- キャリア教育の視点を記述する。
 

この視点は、前述の児童生徒の実態把握に関するアンケート等の結果を受けて設定したキャリア教育で育成すべき力の一つである。
- これらの目標や視点（力）を達成するために、課題や手立て、思考・表現といった学習の流れを計画していく。その際、②の力が児童生徒に身に付けられるよう、キャリア教育の視点からの問い合わせを考慮する。こうした問い合わせによって、児童生徒の学習の意義を理解させたり、学習意欲を高めたりし、最終的に育成すべき力を児童生徒が身に付けられるようにしていく。こうすることで児童生徒のキャリア発達を促すことができると考えた。

\* 詳細については、後述の「キャリア教育の視点を意図的に関連付けた授業実践」参照。

### 3 キャリア教育の視点を意図的に関連付けた授業実践

本研究では、「キャリア教育の道しるべ」の「キャリア教育の進め方」に従って、意図的にキャリア教育の視点と関連付けた授業実践を行った。

#### (1) 小学校での実践～第2学年～

##### ア 課題の把握

本学級の児童のキャリア教育の視点から見た課題を把握するために、アンケートを実施したところ、右の結果が得られた。

かかわる力	みつめる力	解決する力	えがく力
2. 1	2. 7	2. 4	2. 7

本学級の児童は、「かかわる力」が低く、特に「自分の考えや気持ちをみんなの前で分かりやすく話そうとしていますか。」という質問項目は1.8で低いことが分かった。

##### イ キャリア教育で育成したい具体的な力の設定

アンケートの結果を受けて、「自分の考え方や気持ちを分かりやすく話すことができる児童」を目指す児童像とし、「かかわる力」を育成するための授業を実践していくことにした。

##### ウ キャリア教育の視点から関連する教育活動をつなぐ

###### (ア) 「かかわる力」をはぐくむための全体構想

自分の考え方や気持ちを分かりやすく話すことができる児童を育成するために、生活科の単元「もっと知りたいな町のこと」で行う町探検を核となる体験活動として捉え、朝・帰りの会や他教科等の学習を意図的に関連付けた全体構想を作成した。

そして、各教科等での学びと関連付けることを意識して、「かかわる力」をはぐくむための手立てを工夫したり改善を図ったりしながら授業実践を行った。

###### (イ) キャリア発達支援の流れ

核となる体験活動である町探検を行う単元「もっと知りたいな町のこと」の授業を進めるに当たって、キャリア教育の視点を意識することができるよう、キャリア発達支援の流れを作成した。

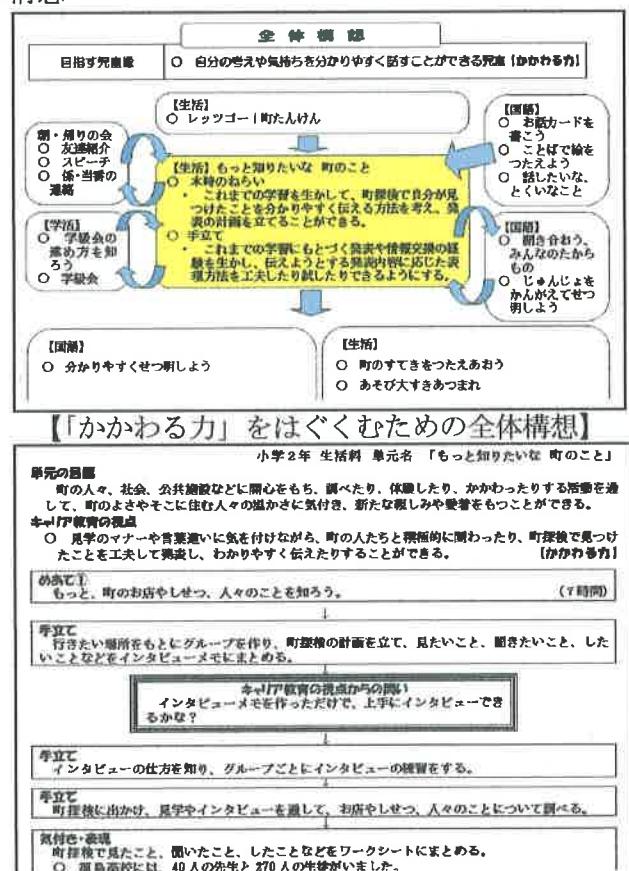
「キャリア教育の視点からの問い」を設定することで、インタビューの練習の必要性に気付かせたり、町の「すてき」を伝えることへの意欲を高めたりした。

##### エ 授業実践

###### (ア) 単元名 「もっと知りたいな 町のこと」

###### (イ) 本時の目標

○これまでの学習を生かして、町探検で自分が見つけたことを分かりやすく伝える方法を考え、町の「すてき」を紹介し合う計画を立てることができる。



(ウ) 学習指導過程

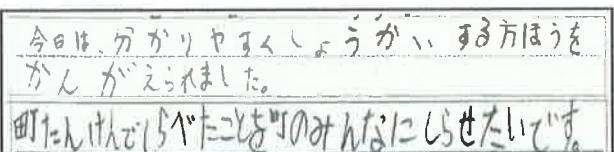
学習内容及び学習活動	○配慮事項 ◆授業中の児童の反応 ☆評価（方法） ◎キャリア教育の視点から見た重要なこと
1 本時のめあてを確認する。  町の「すてき」を分かりやすくしようかいする方ほうを考えよう。	○ 前時にワークシートにまとめた町の「すてき」を紹介するためには、何をする必要があるかを考えさせ、本時のめあてを設定する。  ◎ 写真を提示しながら、朝の会や帰りの会、他教科の学習などで発表や情報交換をした経験を思い出させ、伝えようとする内容に合った紹介方法について整理する。  ◆ 絵・写真・クイズ・地図・本物・手をつかう・うごき
2 どのような紹介の方法があるか話し合う。	◎ グループで相談しながら、自分たちが見つけた町の「すてき」を紹介する方法を決め、ワークシートに記入させるようにする。
3 自分たちが見つけた町の「すてき」を紹介する方法を考える。	◆  自分たちが見つけた町の「すてき」を分かりやすく伝える方法を決めることができる。（観察・ワークシート）
4 町の「すてき」を紹介する方法を発表する。	◎ 話し方・聞き方のポイントを意識して発表できるように、言葉かけをする。
5 本時の学習のまとめをする。	◎ 振り返りカードに学習の感想等を記入し、発表させ、次時以降の学習への意欲を高められるようにする。

オ 実践の考察

○ 授業実践での振り返りでは学級の 95% の児童が「町の「すてき」を分かりやすく紹介する方が分かった」と答え、町の「すてき」を紹介することに意欲的な感想も見られた。

○ 7月と 12月の日常生活アンケートの結果を比較すると、「かかわる力」が 1.0 伸びていた。

特に低かった「自分の考えや気持ちをみんなの前で分かりやすく話そうとしていますか。」という質問項目について 1.3 の伸びが見られた。さらに、そ



【児童の振り返りカード（感想）】

	かかわる力	みつめる力	解決する力	えがく力
7月	2. 1	2. 7	2. 4	2. 7
12月	3. 1	3. 3	3. 0	3. 3

の他の力もそれぞれ 0.6 伸びており、キャリア教育の視点を意図的に関連付けた授業実践したことによって、キャリア発達を支援することができたと考えられる。

○ 児童の意欲を高め、準備や練習をすることで、児童は自分の考え方や気持ちをみんなの前で分かりやすく話そうとができるようになるが、それを日常生活で使える力にするには、このような実践を継続していく必要がある。

## (2) 中学校での実践 ~第2学年~

## ア 課題の把握

本学級の生徒のキャリア教育の視点から見た課題を把握するために、アンケートを実施したところ、右の結果が得られた。

かかわる力	みつめる力	解決する力	えがく力
2. 8	2. 8	2. 7	<u>2. 5</u>

本学級の生徒は、「えがく力」が低く、特に「自分の将来の目標に向かって努力したり、生活や勉強の仕方を工夫したりしている。」という項目が2.2と最も低いことが分かった。

## イ キャリア教育で育成したい具体的な力の設定

アンケートの結果を受けて、「将来の進路希望に向けて自ら主体的に判断し行動できる生徒」を目指す生徒像とし、「えがく力」を育成するための授業を実践していくことにした。

#### ウ キャリア教育の視点から関連する教育活動をつなぐ

(ア) 「えがく力」をはぐくむための全体構想

自ら主体的に判断してキャリアを形成する生徒を育成するために、職場体験を核となる体験活動とした。

学級での係活動や学級活動・道徳を、意図的に関連付けた全体構想を作成した。

各教科等での学びをキャリア教育の視点からつなぐことで、「えがく力」をはぐくむための授業をイメージできるようにした。

#### (イ) キャリア発達支援の流れ

核となる体験活動である職場体験や他教科との関わりを意識して、より効果的に「えがく力」をはぐくむために、キャリア発達支援の流れを作成した。

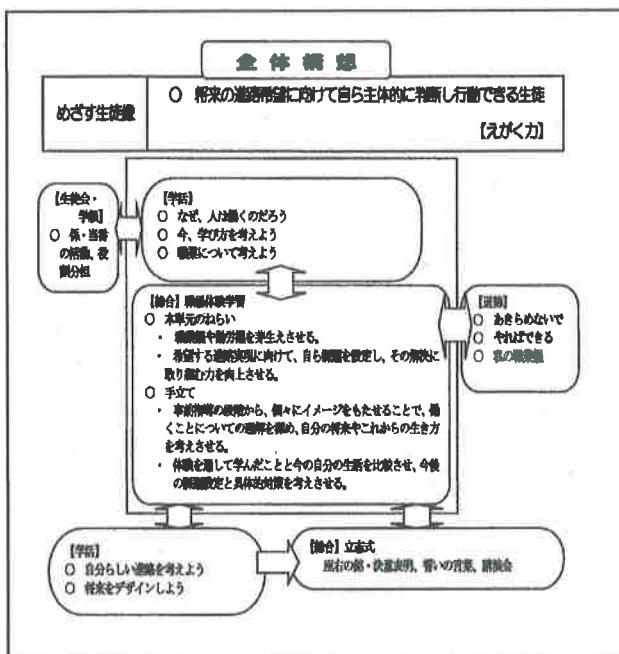
総合的な学習の時間と学級活動で、「キャリア教育の視点からの問い」を設定することにより、「えがく力」の育成をねらいとした一貫した授業を展開した。また、日常生活等でも「キャリア教育の視点からの問い」を意図的に投げかけるようにした。

工 授業実践

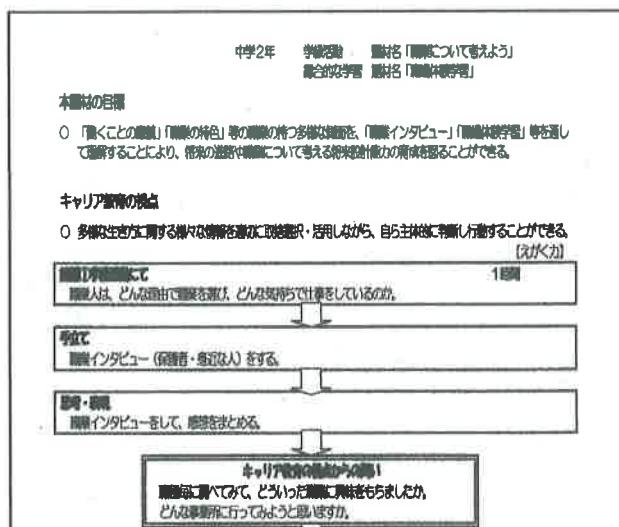
(ア) 題材 「職業について考えよう」

(イ) 本時のねらい

- 職場体験に向けて、しっかりとした心構えをもつことができる。



## 【「えがく力」をはぐくむための全体構想】



## 【キャリア発達支援の流れ】

(ウ) 学習指導過程

学習内容及び学習活動	○ 配慮事項 ◎ キャリア教育の視点から見た重要なこと	◆ 授業中の生徒の反応	☆ 評価（方法）
1 前時で、気付いたことを発表する。	○ 仕事にはやりがいもあれば、困難なことがあることを再認識させる。  ◆ どんな仕事も大変だ。自分がやりたい仕事は長く続けられる。		
2 昨年度の事業所からいただいたアンケートを見て、問題点を考える。	○ 事業所の方の率直な感想を知らせ、問題は何か、改善できることはないかという意識をもたせ課題を設定する。  ◎ 厳しい評価を見て、職場体験に課題意識をもたせる。		
3 本時の課題を確認する。	◆ 仕事ができることに感謝しないといけない。元気のよいあいさつや受け答えをしっかりできるようにならないといけない。		
職場体験に、どのような心構えで臨めばよいか。			
4 問題点と解決策を考える。  ・ 個人、グループで考える ・ 発表する	 ○ 多くの意見を出させ、意欲的な姿勢を大事にする。  ☆ 職場体験に向けて、しっかりととした心構えをもつことができる。  (発表・ワークシート・観察)	◎ 事業所毎に考えることで協力し合う体制をつくり、より一層職場体験に向けて、しっかりととした心構えをもつことができる。  ◆ 保育園児たちに、きちんと叱るときは、叱る。やさしく接する。メモをとることをこころがける。積極的に活動する。笑顔で接客する。手洗いなど、衛生面に気を付ける。品物を丁寧に扱う。	
5 課題が達成できたか、振り返る。	○ 職場体験学習だけでなく、先を見通して計画を立てる重要性も押えておく。		

才 実践の考察

- ほとんどの生徒が、他者の客観的な評価や意見をもとに、自分たちの考えの甘さに気付き、職場体験対して意識を高めるができた。

感想・学んだこと  
仕事ができることに感謝したこと。  
困難(上記)にはきちんとした態度で対処したい。

感想・学んだこと  
仕事としていることは、たくさん大変なこともあれば、誰かに助けにとか、自分の目標や夢のために頑張ってきているのだと改めて感じた。自分の親とかが、家族のためには頑張ってほしいことに感動するだけではなく、「いけない」と思っていた。

【生徒のワークシート（感想）】

- 全体構想からキャリア発達支援の流れを作成し、キャリア教育の視点に立った授業を展開したことで、係活動の充実や将来に対する思いを、日々の生活で口にする生徒が見られるようになった。

	かかわる力	みつめる力	解決する力	えがく力
7月	2. 8	2. 8	2. 7	2. 5
12月	3. 1	3. 1	3. 0	3. 0

- 学校生活アンケートの結果を見ると、7月から12月まで、どの領域も0.3以上伸びたことが分かる。特に、他の力に比べ「えがく力」が伸びたことは、本実践の成果とも言える。また、核となる体験活動を通して、今までに経験できなかつたことを体験できたことも大きな要因であると考える。

- 進路実現に対する意識面・行動面では個人差がある。教師が生徒の実態を把握しながらキャリア教育の視点に立った適切な発問などを投げかけられるかが課題である。

## VII 成果と課題

### 1 成果

- キャリア教育を推進するに当たって、教える側の教職員がキャリア教育についての理解を深めるためのリーフレット「キャリア教育の道しるべ」を作成したことにより、キャリア教育の意義及び一貫した指導の手順を具体的に把握することができた。
- キャリア教育で育成すべき力の全体構想やキャリア発達支援の流れを作成し、実践したことで、教科等を関連付けた指導の在り方が分かり、見通しをもって授業を進めることができるようにになった。
- キャリア発達を支援する授業実践は、個々の児童生徒の課題意識を高め、課題解決に向けて主体的に取り組む児童生徒を育成する手立てにつながった。

### 2 課題

- キャリア教育の進め方や授業の在り方について、一貫教育担当者会等との連携を図り、学校間で情報を共有しながら、キャリア教育の視点から見た授業を広げる必要がある。
- 小中学校を見通したキャリア教育の成果を見届けるために、児童生徒のキャリアが日々の授業でどのように変容したかについて把握する評価の仕方とその生かし方について研究する必要がある。
- 児童生徒のキャリア発達を支援するために、キャリア教育の中心となる体験活動を児童生徒の発達段階に応じて系統的に指導できるよう、さらに研究を深めていく必要がある。

### 【引用・参考文献】

- ・小学校 キャリア教育の手引き [平成23年5月 文部科学省]
- ・中学校 キャリア教育の手引き [平成23年5月 文部科学省]
- ・小学校 学習指導要領解説 生活編 [平成20年8月 文部科学省]
- ・キャリア教育って結局なんだ? [平成21年11月 国立教育制作研究所]
- ・宮崎県キャリア教育ガイドライン [平成25年1月 宮崎県教育委員会]
- ・平成23年度研究紀要 [平成24年2月 串間市教育研究所]
- ・平成24年度研究紀要 [平成25年2月 串間市教育研究所]

### 【研究同人】

所長	土肥 昭彦 (串間市教育長)	
事務局	都成 量 (学校政策課長)	野邊 幸治 (学校政策課長補佐)
指導員	重盛 文人 (指導主事)	
研究員	塩月 貴 (金谷小学校教頭)	朝倉 千恵 (福島小学校)
	幸松 伸代 (笠祇小学校)	外山 弥枝 (都井小学校)
	坂本 結香 (福島中学校)	野邊 智亮 (大東中学校)
	山下 広志 (市木中学校)	